産経新聞　朝刊　和歌山版　2021年7月4日

くじら日記

太地町立博物館から

ミンククジラ

100以上のヒゲでどう食べる？

歯と口の健康週間（6月4日～10日）にちなんだ、くじらの博物館恒例行事「クジラの歯みがき」を6月1日～10日に公開しました。今年は、感染症予防対策を講じたうえで、太地こども園の園児も招待することができ、クジラの食性や歯の特徴を解説するとともに、歯と口の衛生について呼びかけました。

園児からは「歯みがきを頑張りたい！」や「クジラの口は大きくて、歯は白い！」などの声が上がり、歯みがきへの決意のほか、クジラの口と歯にも興味をもってもらえたようです。また、行事開催中、公式インスタグラムでは「クジラのお口の中シリーズ」と題し、飼育する9種全ての歯と口の様子を写真とともに紹介しました。

同じマイルカ科でも、大型の魚を捕らえることができる大きなオキゴンドウの歯、イカを主食とし下顎に数本しか生えないハナゴンドウの歯、小さな魚を捕らえる200本ものスジイルカの歯、細かいシワをもつシワハイルカの歯など多種多様な歯の違いに、改めて採餌（さいじ）の工夫がうかがえました。

さて、「クジラの歯みがき」を無事終えた翌日、三重県で混獲されたクジラが太地に水揚げされると聞き、調査のため駆け付けました。そこで目にしたのは、飼育員でもなじみがない姿形をしたクジラでした。

流線形の体形に三角形状にとがった頭。黒色の背と白色の腹。胸びれの中央を横切る白いバンドのような模様。これらの特徴からミンククジラに間違いなさそうです。この種は、口の中に、歯茎の粘膜が発達したクジラヒゲと呼ばれる特殊な器官を持つヒゲクジラの仲間で、くじらの博物館で飼育する、歯をもつハクジラとは一線を画しています。

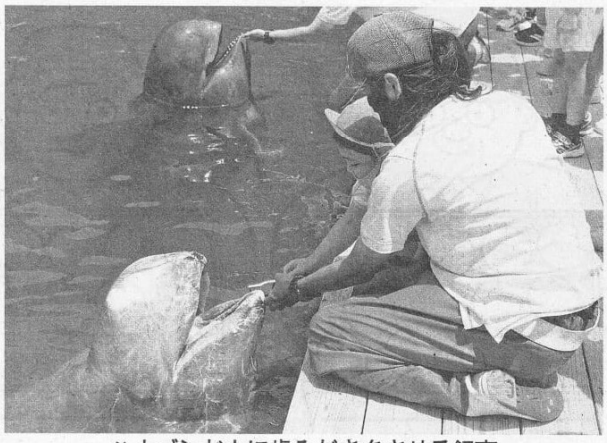
早速、口をじっくり観察しました。下顎からへそにかけて溝状の畝が多数あります。口の中には、上顎にだけ、板状のクジラヒゲが100枚以上連なっています。そのヒゲ板は、繊維状で弾力がありますが、口内側だけ柔らかい手触りでした。その畝とヒゲで、何を、どのように食べているのでしょうか？

ミンククジラの餌はハダカイワシやサンマなどの群集性の小魚ですが、海域によってはオキアミなども食べます。その餌を、大きな口を開け、畝を風船のように大きく広げて、海水と一緒に多量に含み口を閉じます。そして、舌で海水を口の外に押し出し、クジラヒゲで餌だけこし取って食べます。フィルターの役割を担うクジラヒゲですが、食べ残しはなく、真っ白。くじらの博物館のクジラたち同様、虫歯（ヒゲ）ゼロでした。

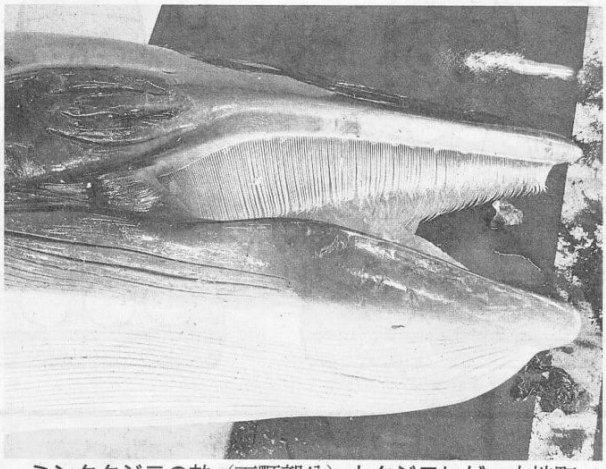
（太地町立くじらの博物館副館長　稲森大樹）

◇

原則第1日曜日に掲載します。森浦湾の迷いイルカ④は後日の掲載となります。



ハナゴンドウに歯みがきをさせる飼育員と園児＝太地町立くじらの博物館



ミンククジラの畝（下顎部分）とクジラヒゲ＝太地町